

## <他のスクールから見た阪大法　－その魅力・使い勝手とは？>

今回は研究会外部からお二人の先生をゲストにお招きしてお話を伺います。お二人とも、もともと阪大法以外のスクールでロールシャッハを実践されていたのが、阪大法に関心をもたれ、研究や臨床に取り入れていただいています。

阪大法との出会いや、阪大法の強みや課題について話題提供いただき、研究会代表の指定討論による対話を通して、他のスクールから見た阪大法の特徴や使い勝手を考える機会にできればと思っております。いろいろな立場の方々のご参加をお待ちしております。

関西ロールシャッハ研究会

### ●日　時●

2023年1月8日（日）14:00～17:00

オンライン（ZOOM）

### ●プログラム●

話題提供

「阪大法の強みと課題について」 服部信太郎（公益社団法人 岐阜病院）

精神科臨床の中でロールシャッハ法を用いるようになり十数年が経ちましたが、阪大法を学び始めた頃に受けたインパクトは今でもよく覚えています。私にとって阪大法の魅力とは、スコアリングする際の対応力の高さと、それがそのまま被検者の理解につながっていく点です。当日は、いわゆる「境界例」（馬場、1983）と考えられるプロトコルを呈示しながら、阪大法ならではの強みと課題についてお話しできればと考えています。

「阪大法に出会って変わった私のロールシャッハ理解」 明翫光宜（中京大学）

私が阪大法の考え方に会ったのは、発達障害のロールシャッハ研究を始めたのがきっかけです。力動的アプローチを用いて発達障害のロールシャッハ反応を理解することが難しいと感じていました。それはロールシャッハ理解と実際の発達障害青年の臨床像とがなかなかフィットしないのです。このような中、阪大法の初期集約的把握型の概念から、反応の発達の視点をすることで、発達障害の反応が現実検討力の障害ではなく、捉え方の未熟さ・特異性と考えることができました。ロールシャッハ反応から心理的支援の方向性について、考えることが出来たのは今でも大きな財産になっています。当日は、私が学んだロールシャッハ反応から今後の支援を探る視点について紹介したいと思います。

指定討論・司会：石橋正浩（大阪教育大学・関西ロールシャッハ研究会代表）

### ●参加費●

1,000円（関西ロールシャッハ研究会自由クラス会員は無料）

（裏面へ）

●参加申し込み●

下記メールアドレス宛に、お名前とご所属をご記入の上、12月28日迄にお申し込み下さい。

参加費（1,000円）を12月28日迄に下記「ゆうちょ銀行」の口座へお振込みください。

お振込み確認後、ZOOM招待状を送付します。

ゆうちょからの振込	他銀行からの振込
口座番号：00940-0-120667 加入者名：関西ロールシャッハ研究会 ※郵便局備え付けの払込書にてお手続き ください。	ゆうちょ銀行 店名：〇九九(ゼロキュウキュウ)(店番099) 預金種目「当座預金」 口座番号「0120667」 加入者名：関西ロールシャッハ研究会

●申し込み・問い合わせ●

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2 D3

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室内

関西ロールシャッハ研究会 事務局

[mail@rorschach.info](mailto:mail@rorschach.info)